



Birthplace of Japan TAKAHARU

日本発祥の地

たかはる



たかかばる

高原町の位置・地勢

高原町は、宮崎県の西南部に位置し、日本最初の国立公園である『霧島錦江湾国立公園』の霧島山をとり囲むように鹿児島県と隣接しています。町の面積のおよそ50%を山林原野が占めています。また、霧島山からの豊富な水が大小河川として町内を流れていることから、水とみどりに富んだ自然豊かな町として知られます。



高原町制施行90周年



【目次】

たかはるを「楽しむ」

観光／皇子原公園	6
観光／御池	8
観光／温泉	10
	11

たかはるを「興す」

経済／ふるさと納税	12
経済／商社創設	13
商工業／商工業	14
雇用創出／フリーウェイ工業団地	15
産業／畜産業・農林業	16
	17

たかはるを「知る」

歴史／日本発祥の地	18
伝統／伝統芸能	20
自然／ジオパーク	22
災害／新燃岳噴火	24
災害／ビヨンドコロナ	26
災害／台風	28

たかはるを「育む」

教育／小中学校統廃合	30
子ども／子育て支援	34
スポーツ／スポーツ少年団・イベント	36
	37

たかはるを「生きる」

地域／まつり	38
人／関係人口・交流人口	40
人／高齢者・スマートウェルネスシティ	42
	43
90周年記念式典・レクリエーション	46
	48

必ず
きれいな水

にくが美味しい

なんかいでも行きたくなる

るるん楽しい遊び場

たかはる

令和5年度高原町内小学校小連携事業
高原町のキャッチフレーズグランプリ作品

『町勢要覧発行に当たって』

宮崎県高原町は、令和6年10月5日に、町制施行90周年という記念すべき日を迎えました。

先人たちが築いてきたこの町は、90年という歳月の中で、幾多の苦難を乗り越えながらも、高千穂峰の麓で『神武の里』として美しくあり続けました。

これまで積み上げてきた歴史や自然豊かな原風景は、人を思いやる心や郷土を愛する風土を育み、今もこの町に脈々と流れ、未来を担う子どもたちへ引き継がれてきました。

近年、日本を取り巻く環境の変化は激しさを増し、頻発する自然

災害や経済情勢、人口減少など多くの課題を抱えています。この時代の流れを的確に判断し、町民の皆さまと知恵を出し合い、誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。

この度、本町の歩みを振り返るとともに、いきいきと活動する町民の皆さまを紹介する町勢要覧を発行いたしました。この冊子が先人への感謝と共に高原町の更なる発展の一助となれば幸いです。

高原町長
高妻 経信



町章

高原の“高”の漢字を“ハル”のかな文字で囲んでいます。

(昭和 37 年 4 月 20 日告示)



町の鳥 (ぶっぼうそう)

狭野杉並木に棲息する渡り鳥で、国指定天然記念物として指定されています。



町の花(みやまきりしま)

霧島山灌木地帯に広く多量に分布し、霧島名物の一つに数えられています。



町の木 (たちばな)

遷都以前の由緒ある樹木として、日本発祥の地にふさわしい樹木です。

高原町民憲章 (昭和 59 年 8 月 1 日)

わたくしたちは、高千穂の峰をはじめとする美しい自然の中に生き、住み良く、豊かで、生きがいある郷土を築くため、この憲章を定めます。

- 一、雄大で美しい郷土を愛し、みんなでこれを守りましょう。
- 一、心身ともに健康で、明るい家庭をつくりましょう。
- 一、豊かな教養を身につけ、みんなで文化を築きましょう。
- 一、互いに助け合い、平和で明るい町をつくりましょう。
- 一、働くことに誇りをもち、豊かな町に育てましょう。

■ 高原町を盛り上げるマスコットキャラクターたち

平成23年に発生した新燃岳噴火災害からの復興をアピールするために、平成24年8月16日に誕生したキャラクターです。この度、90周年を記念してリニューアルしました。『たかぼー』は初代神武天皇にあこがれる古代人をモチーフとしており、『はるちゃん』は天照大神がモチーフです。最近では、『初代神武天皇ご生誕の地、日本発祥の地 たかはる』を町内外にPRするために、朝のあいさつ運動や火の用心運動、イベント参加、各種SNS配信等の活動を行っています。

CHECK 1 はるちゃんと同じ**大きな目**

CHECK 2 町木たちばな色の**洋服**

CHECK 3 町鳥ぶっぼうそう色の**帯や靴**

たかぼー

10月5日生まれの男の子。のんびり屋さんでいたずら好きだけど、おちょこちょい。初代神武天皇に憧れています。ダンスと剣が得意！手にやさしくタッチすると何事にもやる気スイッチが入ります。「みんなと沢山会えると思うと、おらワクワクすっぞ！」



Before

CHECK 1 動きやすい**小顔美人**

CHECK 2 神社をイメージした**巫女**

CHECK 3 町花みやまきりしま色の**服**

はるちゃん

1月1日生まれの女の子。みんなに優しく、太陽神アマテラスのように笑顔で高原町を輝かせます。手にやさしくタッチすると幸せをもらえるとされています。「ダンスは苦手だけど、可愛さだけは負けないんだから♡」



Before

たかはるを
楽しむ

神武天皇ご生誕の地

皇子原にある自然公園



皇子原公園は、霧島山の秀峰、高千穂峰の麓に位置し、神武天皇ご生誕の地と伝わる場所に鎮座する皇子原神社を中心とした自然公園です。特に近年、多くのリニューアルを行い、魅力的な観光地になっています。

令和3年度には、2つの大きな施設が整備されました。屋根付き大型木製遊具『もーりい』は、雨の日はもちろんのこと、紫外線の強い夏の暑い日でも屋根の下で安心して遊べる施設です。また、木育遊具施設『おうじばるの木』は、神武の館の室内にあり、積み木や滑り台、ジャングルジム、ボルダリングなどの全てが木でできており、小さい子どもも安心して利用できる施設となっています。

令和6年度に一般公開となったプロジェクトクションマッピング『TAKAHARU360』は、施設愛称・奥霧島皇子原ヒュッテ（旧レストハウス）内にある一室全体に、映像を映し出しま

す。高千穂峰や狭野神社など、自然や神話にまつわる観光地が目の前に広がり、来場者は高原町の観光を疑似体験できます。

他にも1・2kmの大自然の中を走るゴーカートやニジマスの釣り堀など、子どもから大人まで楽しむことができます。

たっぷり遊んだ後には、公園内にあるキャンプ場で宿泊できます。コテージ棟やテントサイト区画が整備され、快適なアウトドアライフを体験できます。日帰りバーベキューも楽しめるため、家族や大人数での利用にも最適です。

また、春にはカワヅザクラやソメイヨシノが咲き誇り、秋には約300万本のヒガンバナが公園を彩ります。夏は、令和6年度にオープンしたアクティビティ施設『るんるんパーク』で水上遊具を楽しむことができ、一年を通して季節毎に様々な楽しみ方ができます。



大型木製遊具『もーりい』

また、現代の子どもたちは、安全の観点から自然の中で遊ぶ機会が少ない傾向にあります。遊具に関しては、極力自然に溶け込むように整備を行い、皇子

皇子原公園では、ウッドパークプロジェクトを推進しています。『カーボンニュートラルな社会』や『持続可能な開発目標（SDGs）』を指し木材利用の促進を行っています。

木と山に触れ合える公園へ



木育遊具施設『おうじばるの木』

原の持つ資源である立派な木や森に囲まれ、自然と触れ合いながら、木の良さを知ってもらい、地域の森林や木材を学ぶきっかけになる公園を、町民・企業・行政で作っていきます。

さらに、宮崎県側から高千穂峰への登山基地整備を進めています。



たかはるを楽しむ

日本で最も深い火口湖の 畔ほとりにあるキャンプ場

日本初の国立公園に指定された『霧島錦江湾国立公園』内にある火口湖です。周囲4km、水深103mとわが国の火口湖では最も深いといわれており、高千穂峰が湖面に映る水鏡や雄大な自然の景色が人々の心を魅了します。また、釣りやサップなどの水上アクティビティも楽しむことができ、舟遊びやキャンプも賑わっています。周囲に生い茂る原生林は昭和47年に国設の野鳥の森に指定され、遊歩道が造られています。



アクティビティで楽しむ

御池の湖畔で澄み切った空気、あふれる緑、清らかな水、そしてゆっくり流れる時間を過ごすことができます。サップ、カヤック、釣り、登山など様々なアクティビティで体を動かしながら自然を満喫できます。

また、静寂に包まれた湖畔でのキャンプが最大の魅力です。おらかな御池と、原生林が生い茂る野鳥の森に囲まれたシチュエーションは、県内外の多くのキャンパーを虜にしています。

また、キャンプ場内は、光ファイバーが施設され、Wi-Fiも完備されているなど、九州でも珍しいネットストレスがないキャンプ場としても注目されています。

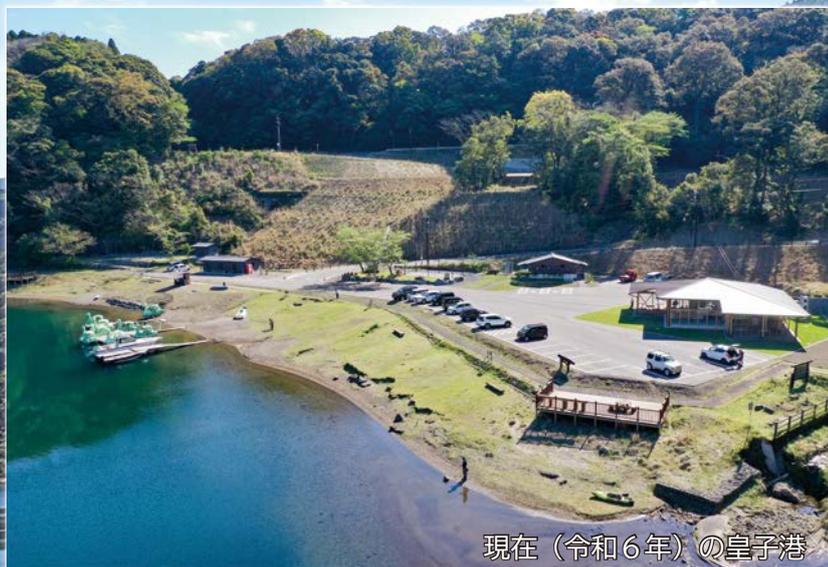
喧騒から離れ、非日常を感じることができる『高原町ならではのキャンプ』を、ぜひお楽しみください。





平成30年の皇子港

令和3年度に皇子港への進入路の工事が完了しました。約40年前に整備した道路が、拡張され勾配も緩やかに変わり、観光バスも皇子港へ行けるようになりました。観光地『御池』として、多くの観光客が集う場所になっています。



現在（令和6年）の皇子港



野鳥と共に

自然と一体になる

『御池野鳥の森』は全国4箇所の国設野鳥の森の一つで、これまでに150種以上の野鳥が確認されており、豊かな自然の中で野鳥のさえずりを間近で感じることができます。

天然のカシ類・タブ・イヌノキ等の広葉樹が、御池・小池を包み込むように広がり、ヤイロチョウの繁殖地としても有名で静かで澄みわたる野鳥の棲息地となっています。

また、原生林ならではの巨木なども魅力です。

遊歩道や観察小屋が整備されており、四季を通じて様々な野鳥を観察することができます。

日本発祥の地に湧き出る

神の息吹を感じる湯

奥霧島

奥霧島温泉郷は、現在4箇所
の温泉施設からなり、天明4年
(1784年)永田永寿院法院の
開拓事業によって湯之元温泉の
源泉が発見されたのが始まりで
す。

その後、明治35年に湯治場と
して湯之元温泉が開業され、薩
摩藩の藩主島津家に仕えていた
家老も、湯治を利用していたと
言われています。なお、温泉そ
のものの由来はさらに昔に遡る
ともいわれ、高千穂峰に神々が
降り立った『天孫降臨』の神話
よりも昔であったと言われてい

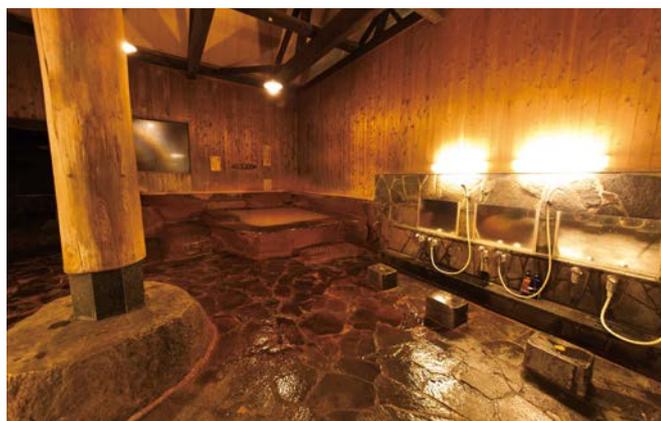
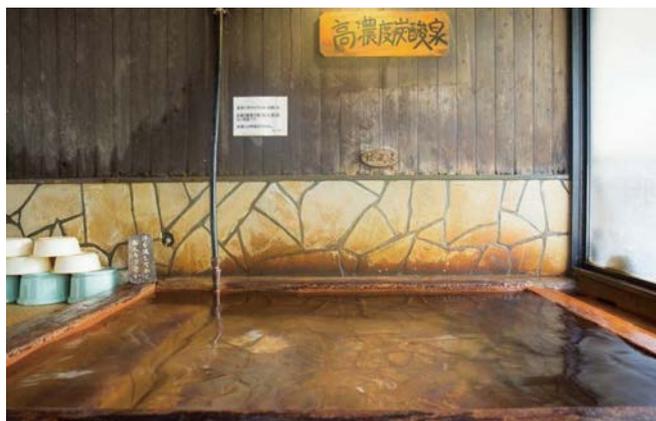
ます。また、近くには日本の初
代神武天皇がお生まれの際に、
諸物を洗い清めたとされる血捨
ノ木があり、神武天皇もこんこ
んと湧き出る泉に心と体を洗い
清めたと言われております。神々
も浸かったとされる長い歴史と
伝承のある温泉です。最近では、
全国でも希少な完全天然の高濃
度炭酸泉と良質な泉質であるこ
とが口コミやメディアを通して
知られるようになり、全国から
癒しやパワーを求め多くの旅行
客が訪れるようになりました。

これまでは『たかはる温泉郷』
として発信をしていましたが、
霧島の奥座敷という自然豊かな
資源を生かし、令和2年10月よ
り『奥霧島温泉郷』に名称変更
しています。

湯之元温泉

明治35年に創業された、町内で最も古い歴史ある温泉です。シュワシュワとはじける、高濃度炭酸泉をそのまま湯船に入れた、かけ流し風呂が特徴で、全国から湯治客が訪れる名湯です。

また、炭酸鉱泉で作られた湯めしや湯天むすは、もちもちとした食感が特徴のお勧めの一品で、温泉で温まった身体に、ほっと一息つける優しい味わいです。



極楽温泉 匠の宿

大きな水車と風情のある建物が印象的な極楽温泉匠の宿は、にがり湯百選に選ばれた湯が自慢です。巨大な一枚岩をくりぬいた一彫石風呂をはじめ、露天風呂、サウナ、炭酸泉水風呂など、バラエティ豊かな湯処で心ゆくまでリラックスできます。

また、厳選した食材を使った山河料理も好評で、温泉と美食を同時に楽しめる贅沢なひと時を過ごせます。

皇子原温泉健康村

炭酸鉄泉の源泉かけ流し100%の天然温泉です。水風呂は霧島裂罅水をそのまま利用して、人の手を加えていないのが自慢。大浴場のほかに超音波風呂や泡風呂、サウナなどが完備された健康志向の温泉です。大人数が宿泊できる施設であり、団体客やスポーツ合宿に最適です。また、西日本一の養鱒場も併設されており、釣りも楽しめます。



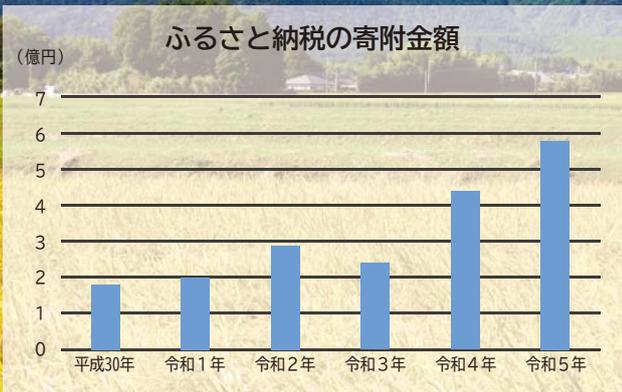
家族温泉 御池の湯

古くは東霧島温泉の名で健康効果の高い湯治場として多くの方に親しまれてきました。

現在は、全室個室のみの温泉で、サウナ付きの露天風呂部屋があるのは御池の湯だけです。貸し切り本格家族風呂として『温泉付き部屋』を提供しています。

他の家族風呂にはない、源泉100%の炭酸水素塩泉のかけ流し露天風呂がある『3種風呂』も楽しめます。

ふるさと納税で たかはるを発信



資源を活かした返礼品で
魅力発信と財源を確保

高原町は、霧島山の麓に位置し、雄大な自然に育まれたきれいな空気や澄んだ水など自然環境に恵まれており、作物の栽培や畜産を営むのに適しています。そのため、ふるさと納税の返礼品では全国的に定評がある宮崎牛、豊かな環境で育った野菜や果物、はちみつなどの特産品が人気商品となっています。

また、宿泊招待券やゴルフプレー券といった体験型の返礼品も含めた高原町らしい品々を数多くラインナップしています。

高原町でも、ふるさと納税は重要な財源となっており、奥霧島地域商社ツナガルたかはる株式会社にて業務委託を行い、返礼品を取扱う町内の事業者の協力をいただきながら、高原町の魅力を発信しています。

今後は、ふるさと納税だけで

なく、町の物産品の人気が自走し、多岐に波及する仕組みづくりを目指します。

高原町の人気返礼品

肉・精肉加工品

宮崎牛を筆頭に、鶏肉加工品やハンバーグなどが安定した寄附を集めています。



果物

ぶどう、梨、金柑など旬のフルーツは、固定ファンがいるほどの人気です。



卵

日用使いの返礼品に注目が集まっている中で、甘みと旨味が絶品の高原町の卵は大人気です。



その他、様々な人気商品が勢揃い

- ・きれいな水が育む米や穀類
- ・丹精込めて作られるスイーツ
- ・宿泊招待券やゴルフプレー券 など

地域商社創設

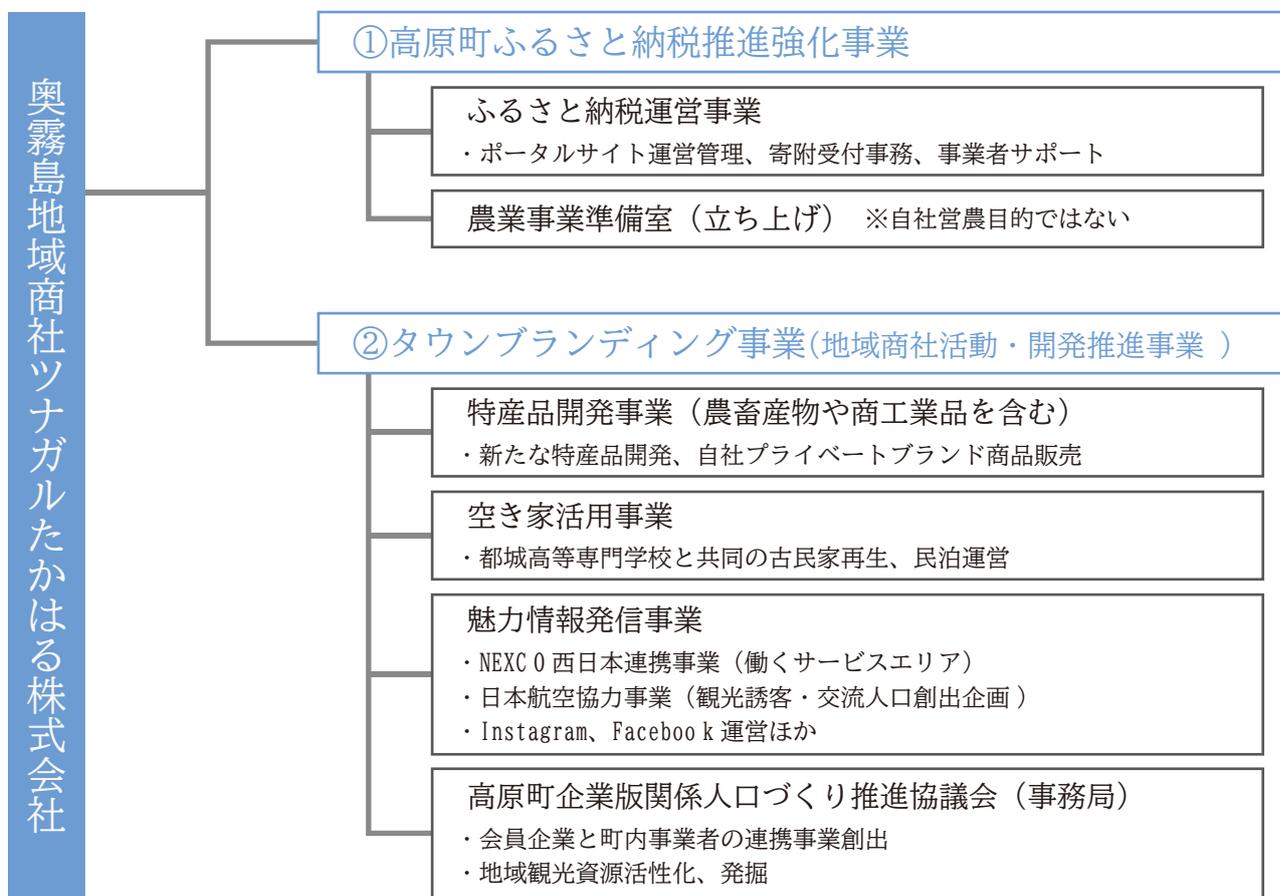
関係人口・交流人口の

創出を地域商社で

時代の変化や多様性の広がる
速さへの対応、官民連携なら
はの課題解決、関係人口・交
流人口の増加による若者など次
代の人材育成と輝ける場の創
出を視野に、『奥霧島地域商社ツ
ナガルたかはる株式会社』が令和
4年に創設されました。

ふるさと納税を通じた関係人
口・交流人口の創出、町内産
品と商流の創出、企業や団体との
連携促進、郷土愛やシビック
プライドの醸成、様々な交流の増
加など、高原町に新たな取組み
展開を目指します。

○事業構想図（令和7年度計画）



商工業振興

高原町では高原町商工会など関係機関と連携しながら、事業所の経営資源等を活かし、新商品・新技術開発や生産・販売方式の導入など経営革新や農商工連携の取組を促進しています。

また、地域商社などと連携しながら、ふるさと納税への返礼

品開発やインターネット販売等によって、寄附者や客が、それぞれの事業所の『顧客』へと繋がる取組や販路拡大の支援の拡充に努めています。その他、中小事業者への金融支援対策にも力を入れており、商工会や金融機関、行政などが一体となった対策等を講じています。

また、商工業者や農業団体の産業団体が連携した地域づくりにも力を入れていきます。



事業承継と創業・起業支援

全国的に見ても、国内景気の悪化や担い手不足により閉業を余儀なくされる事業者が増加傾向にあります。高原町においても、それは例外ではありません。

そのような中で、高原町では事業者が家族や親族以外の後継者に対して事業を引き継ぐ『事業承継（第3者承継）』に取り組んでいます。これまでに、複数の事業所が事業者の想いを含



めて引き継がれ、高原町に新たな息吹をもたらしています。

また、やむを得ず閉業された空き店舗や空き家を再利用し創業する方、町内で起業する方に対して創業・起業支援も行っています。

事業承継や新規創業の促進は、町内産業の振興や雇用の促進へと直結するものであり、今後さらなる推進を図っていきます。



抜群の交通アクセス 雇用を生む工業団地



宮崎フリーウェイ工業団地

宮崎県の南西部に位置する高原町は、鹿児島空港、宮崎空港ともに近距離にあるなど交通アクセスに恵まれています。高原インターチェンジから約1・5kmの広原地区に平成11年3月に完成した宮崎フリーウェイ工業団地は、南九州のほぼ中心に位置する交通アクセスの良さに加えて、日本最初の国立公園に指定された『霧島錦江湾国立公園』をはじめとする自然環境や、人材の豊富さなど、高原町の持つ

資産を最大に活用した大規模な工業団地です。

令和7年2月末時点において残り2区画となり、引き続き宮崎県との連携を図りながら、地方進出を検討する企業に対して開催される展示会への出展やホームページを活用して、情報発信を行っています。

また、工業団地の企業をはじめ、町内誘致企業を集めての連絡会を開催し、行政と民間における現状やこれからの課題などについて情報交換を行い、立地企業との連携を深めています。

宮崎フリーウェイ工業団地分譲図
(令和7年2月 現在)



● 団地の概要

分譲面積	28.05ha
分譲済面積	25.33ha
分譲済率	90.3%

● 未分譲面積

5区	2.21ha
6区	0.51ha

たかはるも興す

自慢の農林産物

霧島山から湧き出る綺麗な水

と肥沃な土地に恵まれた高原町では、昔から農業の営みが人々の暮らしを支え、稲作を中心に、野菜や果樹、花き、工芸作物などの栽培が盛んに行われています。

高原町の野菜

南九州の温暖な気候を生かした施設野菜のピーマン、きゅうりの栽培が盛んです。

また近年、急激に需要の高まっている加工用野菜のほうれんそうや小松菜、にんじん等の栽培面積が拡大しており、町内にある加工工場に運ばれる品目も数多くあります。更に、焼酎の原料となる甘藷は、焼酎ブームも追い風となり栽培面積を順調に拡大しています。

高原町の果樹

毎年、甘くてジューシーで滑らかな食感のものから、すっきりした味わいでシャキシャキ食感の品種までそれぞれ違った味わいの和梨を楽しめます。また、ミネラル豊富な奥霧島の湧水で育てたぶどうやマンゴーは、とにかく甘く、果汁も多く、毎年シーズンになると、町外からも多くの方が足を運びます。

高原町のお茶

温暖な気候に、霧島山からの湧水が豊富で霧の多い高原町では、香り豊かで深い味わいの良質なお茶が楽しめます。また、町産の緑茶用茶葉を100%使用した紅茶は、紅茶独特の渋みがなく、ほんのり甘く、すっきり飲めるのが特徴です。



畜産のまち

高原町は、温暖で雨の多い気候の恩恵を受けており、良質な水や土壌から生産される牧草を活かした畜産業が農業の中核を担っています。肉用牛は、高原

町を含む西諸地域において、5年に1度開催される全国和牛能力共進会で4大会連続内閣総理大臣賞（第9回〜第12回）を受賞した『宮崎牛』の一大産地を形成しており、飼養管理技術は繁殖・肥育農家ともに県内トップレベルです。

乳用牛は、高原町酪農家の技術、乳用牛の乳質・乳量等の能力とともに県内のトップレベルにあり、受精卵技術を活用するなど、改良の進んだ乳用牛を安定して飼養管理しています。そのような管理技術で生産された生乳が加工され、牛乳・乳製品と

して各地に出荷されています。

養豚は、環境にも配慮したレベルの高い飼養管理により、例年安定した頭数を生産・出荷しています。

養鶏は、養豚と同様に防疫に気を配りながら飼養管理をしています。採卵鶏、肉用鶏ともに個々が考えながら独自のブランド展開をしており、県内外から高い評価を受けています。

いずれの畜種も高原町だけの問題に限らず、近年では国際情勢が不安定となっており、物価高騰のあおりを受けています。そのような中でも、より効率的により品質の高い、消費者が笑顔になれる畜産物を届けられるように日々努力を積み重ねています。

高原町の花き

当地域の気候に合った花き栽培が営まれており、菊やユリ、ランシユラス等の切り花から、カーネーションやマリーゴールド等の鉢物まで幅広く栽培され、人生の様々な場面で彩られ、人々の心を豊かにしてくれます。

高原町のしいたけ

最適な生産環境である山林をほだ場に、気温や降雨などに左右されやすい原木しいたけの環境条件を整えるために、天然水を散水するなど、自然の中で穏やかな木漏れ日を浴びながら大切に育てられた高原の原木しいたけは、肉厚で自然の恵みがたくさん詰まった自慢の特用林産物です。



たかはるを知る

日本発祥の地たかはる

アマテラスオオミカミの孫ニギノミコトが高天原から地上の国へ降り立つ古事記の有名な天孫降臨の地、そんな古代ロマンあふれる神話が伝わる高原町には、もうひとつの神話が伝わります。

それは、初代神武天皇が高原で生まれ育ったという伝説です。天孫ニギノミコトの孫ウガヤフキアエズノミコトを父に、海の神の娘タマヨリヒメを母に、4人兄弟の末っ子として誕生した神武天皇は、生まれた地の地名を取って幼名を『狭野

尊(さのみこと)』と名付けられました。

15歳になった神武天皇は皇太子となり、高原を巣立って宮崎に移り、45歳の時に美々津の港から大和地方に出発します。いわゆる神武東遷です。舟軍を率い宇佐、埃宮(えのみや)、吉備国の高島宮などに立ち寄りながら有力者たちからの支援を獲得していき、兵を整え浪速(なみはや)の渡(わたり)に上陸すると、ナガスネヒコとの壮絶な戦いが待ち受けていました。皇兄イツセミコトは戦場で

負った傷がもとで亡くなり、同じく皇兄ミケイリヌノミコトとイナヒノミコトもまた遭難してしまいます。

アマテラスオオミカミや高木神(タカミムスビ)等の応援もあって、作戦を変え、熊野に上陸しようやく荒ぶる神たちを服従させ大和を平定した神武天皇は、畝傍(うねび)の檣原(かしはら)で第一天皇に即位しました。

御腰掛石 (おこしかけいし)



皇子原公園内の皇子原神社へと続く石段横にあり、巨木に半分飲み込まれています。この地に生まれたとされる神武天皇が腰掛けられたと言われています。

産場石 (うべし)



皇子原公園内にある皇子原神社の社殿裏に祀られている石です。神武天皇が誕生した際に使われたと伝えられ、江戸時代の文献にも登場します。この石を触ると安産になる、子宝に恵まれるとも言われています。

皇子原 (おうじばら)



古くから『神武天皇ご生誕の地』と伝えられており、現在は皇子原公園として整備されています。高原町から遠く宮崎平野まで見渡すことができる高台にあります。

祓原・祓川 (はらいばら・はらいがわ)



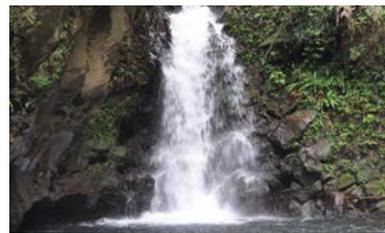
祓原は神武天皇が誕生した際に身体を祓い清められた場所と伝えられています。また、祓川は祓原から流れ出る小川で、神武天皇がお祓いをする際には、この川の水を汲み使われたと伝えられています。

皇子港 (おうじこう)



霧島山最大の火口湖である『御池』。御池にはかつて7つの港がありましたが、その1つが皇子港です。神武天皇が幼少期に水浴びなどよく遊んだ場所と言われ、高千穂峰を正面に望む景勝地として知られています。

皇子滝 (おうじだき)



皇子原公園の北側を流れる清流には、いくつも滝があります。その一つが『皇子滝』と呼ばれています。由来は不明ですが、神武天皇が幼少の頃、遊んだ場所と言われています。

狭野渡 (さののわたし)



神武天皇が『高千穂宮』を出発して、東へ向かう際に、最初に船を使って川を渡った場所と言われています。

宮の宇都 (みやのうと)



神武天皇の父であるウガヤフキアエズノミコトの皇居『高千穂宮』があった所と言われています。江戸時代には社殿などが整備されました。

血捨之木 (ちしゃのき)



神武天皇が誕生した際、母のタマヨリヒメが諸物を洗い清めた場所と言われています。

鳥井原 (とりいばら)



高原を離れる神武天皇一行を住民たちが安全を祈りながら見送り、鳥居を建てた所と言われています。

馬登 (まのぼり)



『迎』を過ぎた神武天皇一行が坂を登る際に初めて馬に乗られた所と言われています。

迎 (むかえ)



『狭野渡』を越えて東へ向かう神武天皇一行を、地元の人々が出迎えて見送った所と言われています。

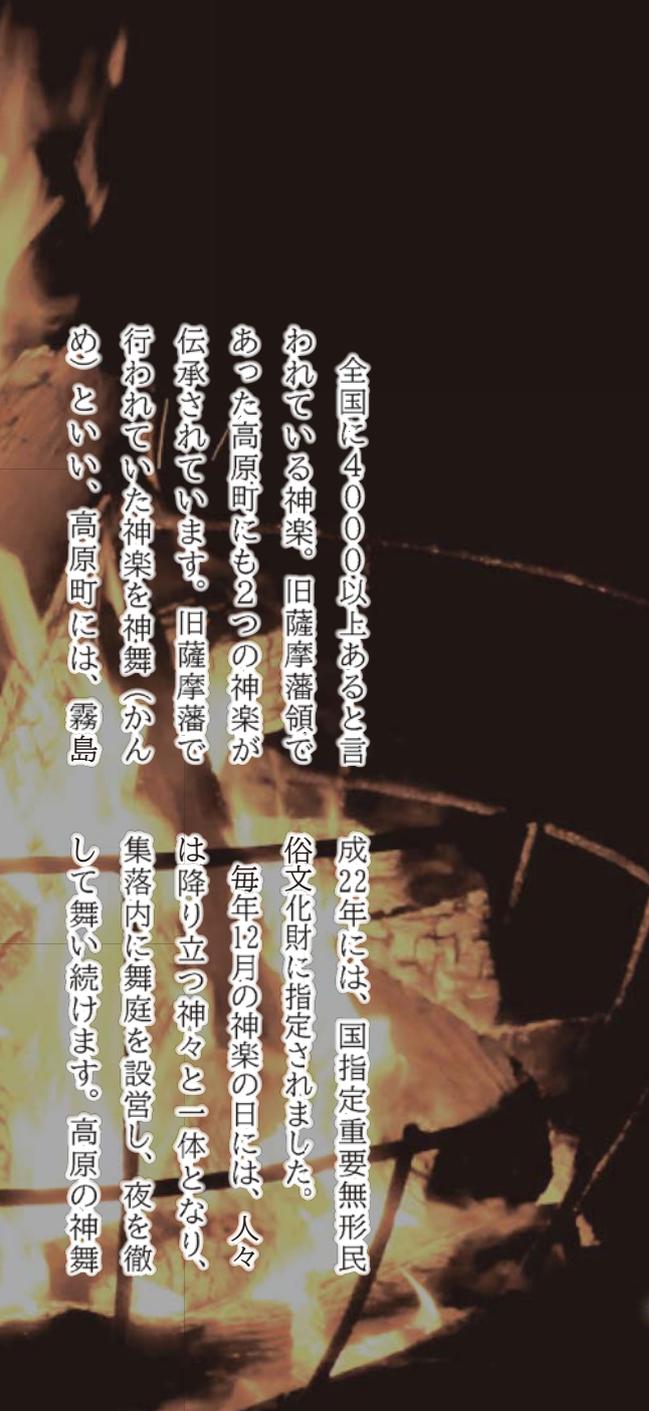
たかはるを
知る

高原の神舞



狭野神楽

12月第1土曜日 午後7時から翌朝7時まで
狭野神社第2鳥居前
高原町大字蒲牟田 117



全国に4000以上あると言われている神楽。旧薩摩藩領であった高原町にも2つの神楽が伝承されています。旧薩摩藩で行われていた神楽を神舞（かんめ）といい、高原町には、霧島

成22年には、国指定重要無形民俗文化財に指定されました。毎年12月の神楽の日には、人々は降り立つ神々と一体となり、集落内に舞庭を設営し、夜を徹して舞い続けます。高原の神舞



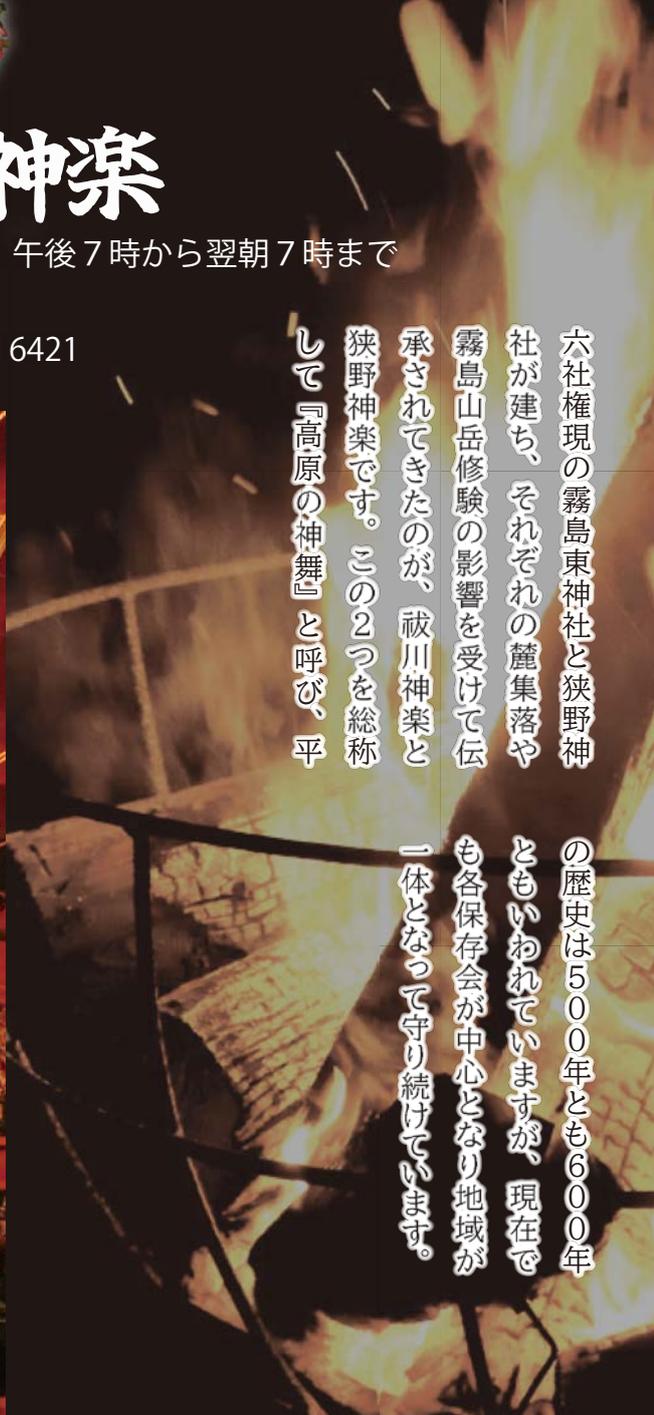


祓川神楽

12月第2土曜日 午後7時から翌朝7時まで
 祓川神楽殿
 高原町大字蒲牟田 6421

六社権現の霧島東神社と狭野神社が建ち、それぞれの麓集落や霧島山岳修験の影響を受けて伝承されてきたのが、祓川神楽と狭野神楽です。この2つを総称して『高原の神舞』と呼び、平

の歴史は500年とも600年ともいわれていますが、現在でも各保存会が中心となり地域が一体となって守り続けています。



たかはるも知る

自然の多様性と

それを育む火山活動



ジオパークとは、大地（ジオ）と人の関係を見つめなおす公園になります。ジオパークは世界遺産などと同様にユネスコの正式プログラムのひとつであり、世界にはユネスコ世界ジオパークネットワーク加盟のジオパークが213箇所、日本には10箇所あります。（2024年3月現在）霧島ジオパークの大きな魅力は、現在も活発に活動する火口のすぐ近くまで行き、火山を体感できることです。火口からモクモクと立ち上がる噴気とその独特の音、そして強烈なにおいは活火山でしか味わうことができないものです。

高原町を見守るようにたたずむ霧島山。その活動を知る・体感できる場所が高原町にはいくつもあります。霧島山がもたらす恵みや地球の営みを感じ取ることができます。

霧島ジオパークについて

◎構成市町

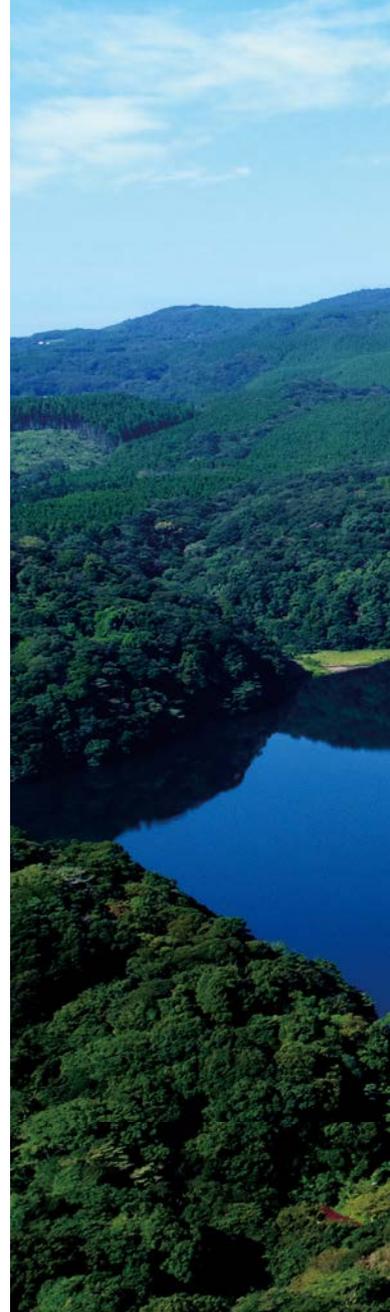
宮崎県 都城市、小林市、えびの市、高原町

鹿児島県 霧島市、曾於市、湧水町

◎特色（魅力）

- ①雄大で美しく、変化に富んだ景観
- ②火山活動の歴史を体感できる火山の博物館（20ほどの火山が存在）
- ③地球規模の環境変動と火山活動によって育まれた多種多様な植生
- ④天孫降臨の舞台、神話と火山信仰の歴史

◎エリア面積(2,751km²)



高原町の登録サイト

地形地質

二子石
御池
皇子滝



文化

天逆鉾
霧島神宮元宮(青門丘)
狭野神社
霧島東神社
越の華立
神武天皇産場石



ビュースポット

霞神社



施設

皇子原公園神武の館



自然

祓川湧水
赤池鉱泉



新燃岳噴火から学ぶ

霧島山の麓に位置する高原町では、火山の恵みを受けながらも、噴火災害に見舞われた歴史があります。特に新燃岳については、近年でも噴火を起こしており、我々の記憶に新しいところでです。

霧島山は宮崎県と鹿児島県にまたがる、20あまりの火山群の総称です。このうち新燃岳は有史以前からの噴火の記録があり、現在でも御鉢とともに活動中の火山です。新燃岳の記録がある火山活動としては、正徳6年（1716年）がもっとも古く、2

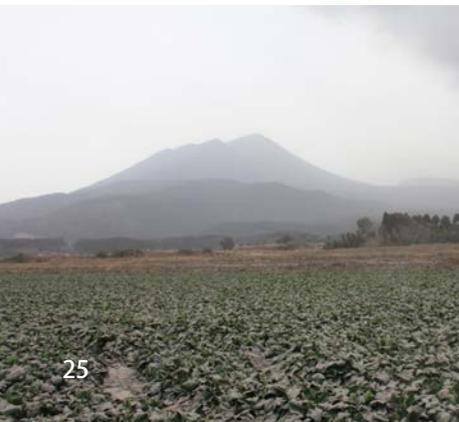
年間の噴火で死者6名・負傷者61名、焼けた家屋が600棟余りと伝えられています。その後、昭和34年に新しい火口から山麓まで火山灰が積もる噴火が発生し、火口から約3 km離れた場所で被害が発生しています。

最近では、平成18年に火山性地震が多発し、平成20年、平成22年に小規模な噴火が発生しました。そして、平成23年1月19日に小規模な噴火が発生した後、1月26日に多量の火山灰を噴出してマグマ噴火が始まり27日まで続きました。当時は北西の風

で火山灰は都城市がある南東方向へ流れ、約60 km離れた日南市でも降灰が確認されています。そして、同年1月30日の深夜には町内513世帯1158人に避難勧告を発令し、避難所では多くの住民が不安な夜を過ごしました。

それから約6年ぶりの平成29年、平成30年に続けて新燃岳が噴火しました。この時の噴火では、避難勧告を発令するまでには至りませんでした。火山灰による被害など住民の生活に大きな影響を及ぼしました。

これらの噴火災害を受けて、町では1月26日を『新燃岳を考える日』として、小中学校での防災授業や保護者への引き渡し訓練を行っています。また、防災行政無線や防災メールなど、住民がいち早く防災情報を取得できるように整備を進めてきました。その他、火山ハザードマップを作成したり、自主防災組織等への研修会により常日頃から町民に火山防災を呼び掛けていきます。



たかひるも知る

未知のウイルスとの闘い

ビヨンドコロナ



令和2年1月、国内で新型コロナウイルス感染者が初めて確認され、翌月2月には、大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客乗員のうち10人から新型コロナウイルスの感染が確認されました。そうして、全国各地で感染が拡大し、その年の4月には全国で特別措置法に基づく緊急事態宣言が出されました。

高原町でも感染拡大防止のため各小中学校の休業、各種事業の中止や不要不急の外出の自粛を余儀なくされ、飲食店や観光施設を中心に経済面で多大な影響を受けました。

高原町では当時、集団予防接種事業や飲食店等への支援事業をはじめ、様々な対策事業に尽力してきました。また、緊急事態宣言が発令されたことで、各地への移動が困難になったことを踏まえ、『戻ろこたろどん、きばっくいやん便』と称し、本町に住む家族からの生活必需品等を県外に仕送りする際、町が送料を負担し、除菌スプレー、マスクを同梱用に支給するなどの支援も行いました。

令和5年5月には、感染症法上の位置づけが第5類に引き下がったことに

戻ろごたろどん、きばっくいん便

高原町に住む家族からの生活必需品等を県外に仕送りする際、町が送料を負担し、除菌スプレー、マスクを同梱用に支給するなどの支援を行いました。



畜産物消費拡大対策事業



新型コロナウイルス感染症の影響による消費の落ち込んだ畜産物の消費拡大を図るために、ほほえみ館敷地内でドライブスルー方式の販売が行われました。

コロナに負けるな 大型連休自宅チャレンジ企画

“コロナに負けるな 大型連休自宅チャレンジ企画”と題し、『絵画・工作コンテスト』を実施しました。

感染拡大防止のための緊急事態宣言が発令された最中でのチャレンジ企画でしたが、明るく未来を見据えた作品が数多く集まり、たくさんの元気をいただきました。



より、落ち着きを見せましたが、こうした一連の新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活には大きな変化が起こり、これまで常識的だったことも覆る事態となりました。

これを教えに、突発的な危機を町民一丸となって克服していく雰囲気づくりに繋げていきます。

たかひるも知る

甚大な被害

令和4年台風14号

令和4年9月18日に九州に上陸した大型で強い台風14号（ナンマドル）により、常盤台水源地区で発生した山林崩落により導水管が寸断され、町内で大規模な断水が発生し、断水解消の遅い地区では10日間ほどかかりました。

町内の建設業、林業、水道事業者と共同で、夜間を徹し、流失木等の撤去、仮設道路の設置、仮設導水管の設置に取り組みました。また、自衛隊をはじめ関係機関からの給水支援をいただくなど、延べ49の自治体や団体から支援を受けました。



【経過】

令和4年

9月17日

午前11時・強風域突入
午後4時・高齢者等避難発令
・避難所開設

9月18日

午前3時・暴風警戒
午前8時・避難指示

9月19日

午前1時・水源地土砂崩壊発生
午前10時・断水広報町民周知
(節水をお願い)

午後1時・町から県へ自衛隊派遣要請

・県知事から自衛隊に災害派遣要請

午後3時・断水 町民へ給水開始

(飲料用4箇所、生活用水4箇所)

・水源地土砂撤去作業開始
・協力企業により給水支援
・町民への給水

9月20日

(飲料料4箇所、生活用水4箇所)

※20日～27日

9月23日

午後1時・県知事給水ポイント視察
・協力自治体より給水支援
※23日～

復旧工事完了（常盤台水源地）

国の災害復旧事業の補助を受け、町道及び水道施設の復旧を行い、土砂崩壊した法面は、県の治山事業により、法面復旧工事を行いました。令和6年6月には、常盤台水源地関連すべての災害復旧工事が完了しました。



9月25日	仮設導水管敷設工事開始
9月26日	午前0時・仮設ポンプによる送水開始 午前8時・協力自治体より給水支援 (追加)
9月27日	午後4時・飲料用として利用可能と判断
9月28日	午後6時・町内全域の断水解消
令和5年 5月10日	常盤台水源地の災害復旧工事開始
8月8日	山林の治山事業工事開始
8月31日	導水管の復旧工事完了
9月3日	復旧導水管による送水開始
令和6年 2月13日	すべての水道施設復旧工事完了
3月22日	町道の復旧工事完了
6月14日	山林の治山事業工事完了

たかはるを 育む

たくましいからだ

豊かな心

優れた知性

高原町小中一貫教育校

町内には、4つの小学校、2つの中学校が存在します。令和8年度からは、現在の高原小学校と高原中学校の場所に統合され、施設分離型の小中一貫教育校『たかはる学園』を新設します。

生きぬく力を育む

時代が急速かつ大きく変化する中、新しい時代に対応できる力を持ち、持続可能な社会の創り手の育成を目指した教育の推進が求められています。

学校・家庭・地域とともに子どもたちを見守り、育てる教育を推進し、確かな学力、豊かな人間性、健康で安全な生活習慣能力、ふるさとに誇りをもち地域に貢献しようとする意欲のある子どもを育てていく必要があります。

そのための環境整備も同時に進めていく必要があります。





高原中学校校歌

一、高千穂の峰 朝夕に
仰ぐこの庭 風清し
ここに学びて 伸びゆく我ら
個人の完成目指して 進まん

あーああ あー高原 高原
高原中学校

二、神杉高き 狭野の原
歴史の命つくるをなし
ここに学びて 伸びゆく我ら
不滅の真理を共に極めん

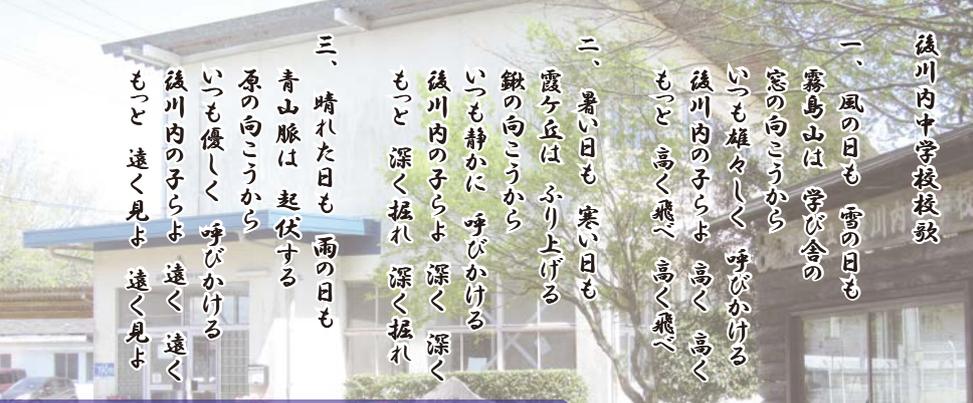
あーああ あー高原 高原
高原中学校

三、御池の水のます鏡
平和の華くもりをなし
ここに学びて 世に立つ我ら
栄ゆる郷土を明るく築かん

あーああ あー高原 高原
高原中学校



高原中学校



後川内中学校校歌

一、風の日も 雪の日も
霧島山は 学び舎の
窓の向こうから
いつも雄々しく 呼びかける

後川内の子らよ 高く高く
もつと 高く飛べ 高く飛べ

二、暑い日も 寒い日も
霞ヶ丘は ふり上げる
鉄の向こうから
いつも静かに 呼びかける

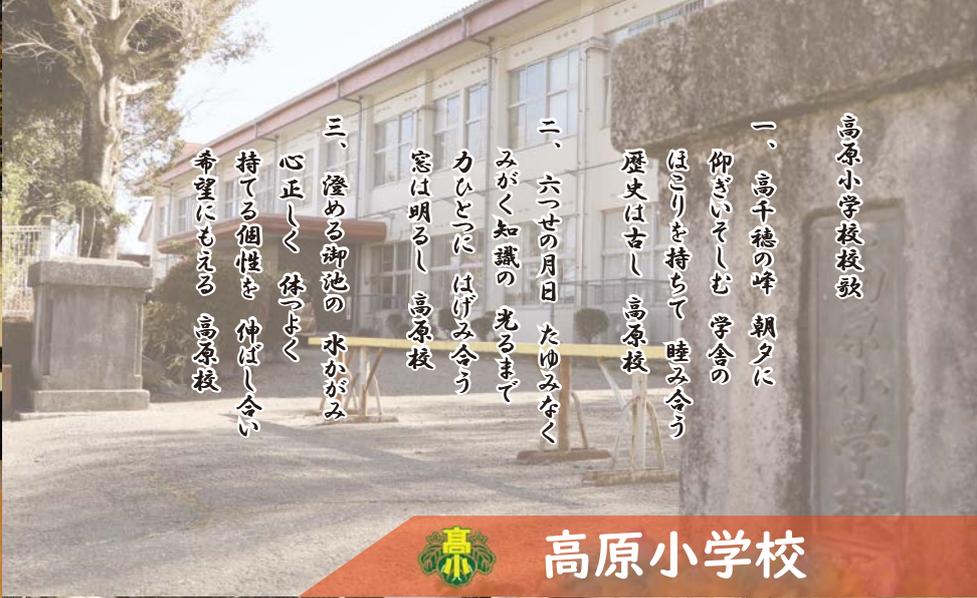
後川内の子らよ 深く深く
もつと 深く掘れ 深く掘れ

三、晴れた日も 雨の日も
青山脈は 起伏する
原の向こうから
いつも優しく 呼びかける

後川内の子らよ 遠く遠く
もつと 遠く見よ 遠く見よ

後川内中学校





高原小学校校歌

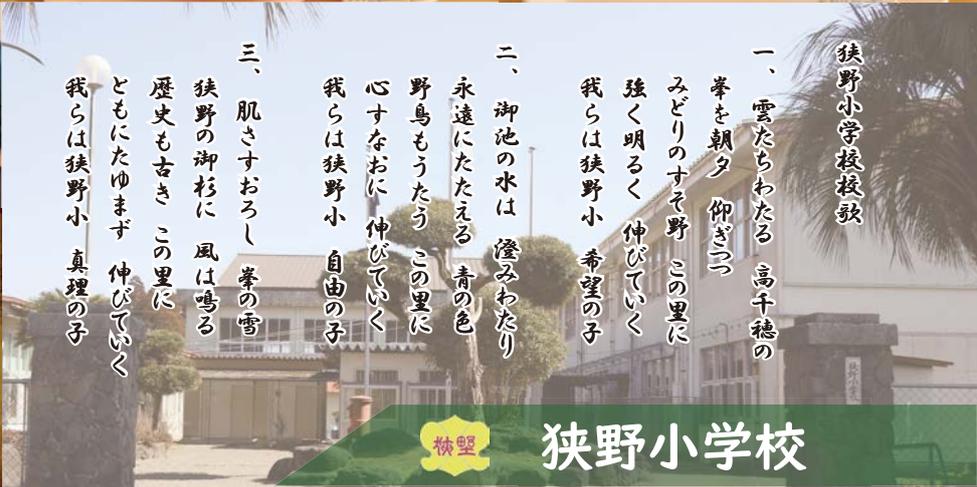
一、高千穂の峰 朝夕に
 仰ぎいそむ 学舎の
 はこりを持ちて 睡み合う
 歴史は古し 高原校

二、六つせの月日 たゆみなく
 みかく知識の 光るまで
 力ひとつに はげみ合う
 窓は明るし 高原校

三、澄める御池の水ががみ
 心正しく 体よく
 持てる個性を 伸ばし合い
 希望にもえる 高原校



高原小学校



狭野小学校校歌

一、雲たらわたる 高千穂の
 峰を朝夕 仰ぎつつ
 みどりのすそ野 この里に
 強く明るく 伸びていく
 我らは狭野小 希望の子

二、御池の水は 澄みわたる
 永遠にたたる 青の色
 野鳥もうたう この里に
 心すなおに 伸びていく
 我らは狭野小 自由の子

三、肌さすおろし 峰の雪
 狭野の御杉に 風は鳴る
 歴史も古き この里に
 ともにたゆまず 伸びていく
 我らは狭野小 真理の子



狭野小学校



後川内小学校校歌

一、よんでいる よんでいる

霧島山が
今日もみんなを よんでいる
さあ 校庭の 桜のように
清く 明るく 美しく
生きて いこうよ 歌おうよ
後川内の小学生

二、みつめてる みつめてる

かすみがおかか
今日もやさしく みつめてる
さあ 校庭の せんだんよりも
かおり ゆたかに すこやかに
えだをはろうよ 学ぼうよ
後川内の小学生

三、ふいてくる ふいてくる

希望の風が
今日もまどに ふいてくる
さあ校庭の いちようのように
強く 大きく たくましく
伸びていこうよ みろろうよ
後川内の小学生

後川内小学校



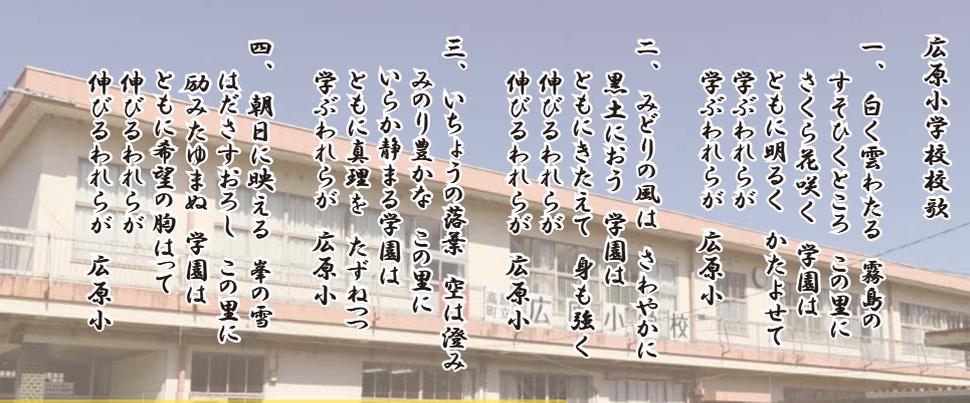
広原小学校校歌

一、白く雲わたる 霧島の
すそひくところ この里に
さくら花咲く 学園は
ともに明るく かたよせて
学ぶわれらが 広原小
学ぶわれらが

二、みどりの風は さやかに
黒土におう 学園は
ともにきたえて 身も強く
伸びるわれらが 広原小
学ぶわれらが

三、いちようの落葉 空は澄み
みのり豊かな この里に
いらか静まる 学園は
ともに真理を たずねつ
学ぶわれらが 広原小

四、朝日に映える 峯の雪
はださすおろし この里に
励みたゆまぬ 学園は
ともに希望の胸はつて
伸びるわれらが
伸びるわれらが 広原小



広原小学校

安心して育てる

未来を担う町の宝

生活様式の変化や就労における女性の活躍推進など、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、子育てニーズへの柔軟な対応が求められています。高原町では、『子どもが主役』ここで育って良かったと思えるまち たかはる』を基本理念に出産前から子育て期まで切れ目なく子育て支援ができるよう取組を進めています。



子育て支援センターの充実



乳幼児との生活には心配事も多いと思いますが、子どもたちの健やかな心の成長には保護者と周りの方の笑顔が欠かせません。子育て支援センターでは、乳幼時期の子どもたちの遊び場であるとともに、子育ての悩みや不安などの相談を行い、地域の子育てに関する情報提供なども行う拠点になっています。

充実した保育施設



町内には公立保育所が3箇所、私立保育所が1箇所、認定こども園が1箇所あります。その他、認可外保育施設も1箇所あり、それぞれの施設が特色のある保育を実施しています。保護者の共働きが進む現代で、仕事をしながら子育てを行うのに必要不可欠な存在になっています。子どもを安心して預けられるよう、どの施設も頼れる保育士たちがいます。

たかふるも育む

スポーツで輝くまち

高原町では、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を営むため、気軽にスポーツを楽しめるように様々な取組を行っています。また、小中学校からも全国レベルの選手が多く輩出されています。



剣道

剣道といえば高原町というくらい昔から剣道が盛んな町です。これまでも小中学校から全国で活躍する高原剣士たちを多く輩出しています。

新燃岳噴火からの復興を祈念した高原町長旗争奪中学生剣道大会では、毎年九州管内の強豪校が集います。



野球

例年、高原野球スポーツ少年団は全国学童軟式野球大会に出場するなど地域に元気と勇気を与えてくれます。また社会人チームもあり、全国青年大会で優勝を果たしたこともあります。



サッカー

日々、高原の小学生たちが一生懸命汗を流しています。スポーツ少年団サッカー大会の九州大会などでも見事な成績を収めています。



ゴルフ

町内に3つの団体があり、盛んに活動しています。町もスマートウエルネスシティの考えに基づき、町民の身体の健やかさはもちろん、ひとりひとりの心のあり方にも着目した『健幸』の実現を目指しています。また、令和9年度の第81回国民スポーツ大会では、デモンストレーションスポーツとして、健幸増進グラウンド・ゴルフ大会が高原町で開催される予定です。



バレーボール

各種大会において、小学生、中学生ともに輝かしい成績を収めており、最近では中学日本代表選手も輩出しています。また、ママさんバレーなども町内体育館で盛んにバレーを楽しんでいます。

日本発祥の地たかはる健幸駅伝競争大会

霧島山の麓、神武の里を体感できるコースで駅伝大会を実施しています。毎年、町内外から多くのチームが参加します。

当日は、子どもから大人まで、『日本発祥の地たかはる』を全力で走り抜けます。



神武の里総合武道大会

武道大会は、武道を通じた交流と親睦を深め、青少年の健全な心身の育成を目的としています。参加者は日頃の鍛錬の成果を競い合い、互いに切磋琢磨することで、武道の精神を学びます。



自治公民館レクリエーション大会

高原町総合運動公園を中心に、地域住民が一堂に集まり、グラウンド・ゴルフやゲートボール、ミニバレー、ウォーキングなど様々なレクリエーションを楽しみながら、地域住民の親睦と融和、体力づくりを目指すための大会です。



霧島登山マラソン

皇子原公園からスタートし、高千穂峰をゴールとする霧島登山マラソン。令和6年に第22回目を開催し、歴史ある大会となっています。

『天逆鉾』のある頂上を目指し、標高 1,574m を駆け上がります。天孫降臨コースの植生豊かで雄大な自然を感じながら、ゴールの達成感と山頂からの景色が絶景です。



たかはるを生きる

まつりでまちを元気に

季節毎に町内では地域資源などを活用した様々なまつりが行われています。その中でも、日本発祥地まつり、まつり高原、後川内夏まつりは大きな祭りです。企画運営に携わる人々はその日のために準備を重ねることで親睦を深め、絆を強くし、当日は多くの町民がまつりの賑わいを楽しんでいます。また、町外の人々を招いて交流を図るなど町の活性化の一翼を担っています。



日本発祥地まつり

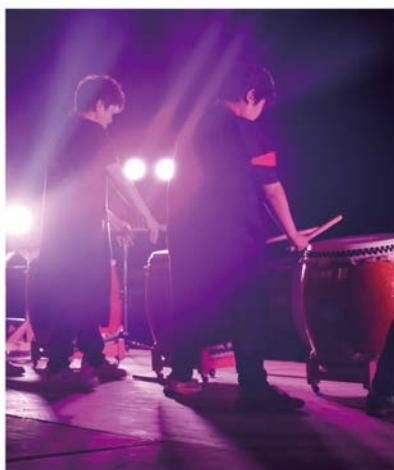
日本発祥地まつりは、神武天皇が生誕した地としてその伝承や誇りを子どもたちが末永く引き継いでいくため、当時東遷に向かった神武天皇と同じ年齢に当たる中学生が実行委員となり開催されています。また、古代衣装を身にまとい、狭野神社の御鳳輦（御神輿）を中心とした御神行列が行われ、宮崎神宮との連携により獅子舞の奉納や巫女舞、雅楽も披露されます。

まつり高原

高原町商工会主催で行われるまつり高原は、平成30年に第50回を迎えた半世紀以上続く高原町の一大イベントです。

ステージイベントや様々な出店が会場に並び、町内外から訪れる多くの方で会場は大いに賑わいます。

まつりの最後は、まつり高原の代名詞である花火が会場を魅了し、フィナーレを迎えると割れんばかりの大歓声と拍手が鳴り響きます。



後川内夏まつり

後川内で開催される夏まつりは、後川内の地域住民や縁のある方が実行委員会を立ち上げ、自分たちの手で一から作り上げるまつりです。

8月のお盆の時期に開催されるため、地元の方はもちろん、帰省された方々も訪れ、多くの人で賑わいます。ステージイベントや地域住民による多くの出店が並び、子どもから大人まで大いに盛り上がるまつりとなっています。

まちと人を繋ぐ

高原町は、土地や水などの資源が豊富にあります。緑豊かな自然や夜に輝く満天の星空に、都会では味わえないゆつくりとした時間を過ごすことができます。

こうした環境の中で生活したい、活動したいという人にはぴったりの場所です。

高原町の総人口は、昭和30年以降、減少し続けており、令和6年12月時点では7906人で、今後も減少し続けることが想定されています。町では人口の減少に歯止めを掛けるため、移住・定住の促進、関係人口・交流人口の増加に取り組んでいます。



移住・定住

少子高齢化等を要因とした人口減少は、非常に大きな地方課題となっています。

高原町でも喫緊の課題として、移住・定住に向けた施策の展開を国の補助制度の利用や町の魅力発信を行いながら進めています。

高原町での暮らしを支援

高原町で育ち、高原町で暮らしていく方々はもちろん、移住される方々へもできる限りのバックアップをしていくことが、今後も町を輝かせていくことに繋がります。

高原町の次世代を担う事業者との対話、移住相談会やお試し滞在など、本町の魅力を町内外で共有・PRしながら、少しでも多くの方が高原町で暮らし続けてくれる施策や事業の展開を図ります。

地域おこし協力隊設置事業

都市部等から地方に移住し、地域課題解決のために活動する人材を支援するための国の制度であり、本町でも地域おこし協力隊の受け入れ、任用を進めてきました。

地域おこし協力隊として、観光振興事業、事業承継、農業承継、ふるさと納税の推進強化などに尽力していただいています。



地域おこし協力隊として家族で移住してこれ、退職後も高原町で様々な形で活躍されている方が多数います。

関係人口・交流人口

全国的に人口減少が進む中、どの自治体においても移住・定住に向けた施策が進められており、差別化を図ることが非常に困難になっています。

そのような中、本町では遠方から高原町のファンとして応援してくれる関係人口、実際に足を運んでもらいいりピーター等として応援してくれる交流人口の獲得によって、地域課題の解決に資するものと位置付け強く推進しています。

また、一般の方や企業の関係人口・交流人口を、奥霧島地域商社ツナガルたかはるや外部人材を活用して幅広く獲得し、更には、その延長線上に移住・定住、町外からの事業進出や町内事業所とのマッチングによる地域活性化に繋がるように様々な施策に取り組んでいます。

地域活性化起業人制度の活用

国の制度である地域活性化起業人制度などを積極的に活用し、『高原町産業官民連携推進官』と『高原町地域産業創生官』の任用を行っています。

国の制度により、外部人材の活用を行っていくことにより、地域活性化起業人を中心とした関係人口、交流人口の新たな発掘や、町内企業等との事業マッチングが実現しています。

また、副業型の地域活性化起業人制度活用も進んでおり、副業として本町の事業に協力していただいている方もいます。

地域活性化起業人は、特産品の開発や人材開発等に専門的見地を取り込み、本町の事業を加速度的に推進する非常に重要な役割を果たしていただいています。



企業版関係人口づくり推進協議会

高原町独自の取組として企業版関係人口づくりに取り組んでいます。

都市圏の民間企業の経営者等に高原町の関係人口・交流人口になっていただくことにより、企業研修や幹部研修を高原町で実施していただいたり、高原町での事業展開を行っていただいています。実際に多くの企業経営者が来町しており、地域活性化起業人として人材を派遣していただいている企業もあります。



この経営者の方々が、個人でのふるさと納税や企業版ふるさと納税をしていただいていることにより、関係人口・交流人口としての経済波及効果も高いものがあります。

引き続き、様々な企業が本町に関係人口・交流人口として関わってもらえるよう高原町の魅力をプロモーション及びブラッシュアップしていきます。



高齢者が活躍するまち

たかはるまき生きる

オレンジカフェ

認知症や介護の相談をしたり、参加者同士で交流し、身近にあるカフェのように気軽にお茶を飲みながらホッとする時間を過ごすことができる場所があります。高原町には現在2か所のオレンジカフェがあります。

◆オレンジカフェ たかはい ◆オレンジカフェ さの



脳の健康教室

脳の健康教室とは、地域のシニア世代のための『脳の健康づくり』を行う教室です。

教材を使用した読み聞き、計算、すうじ盤、コミュニケーションにより、脳の活性化を図ります。受講者や教室サポーターの方々が仲間をつくり、社会との繋がりを深め、地域コミュニティづくりへの貢献を目的としています。

茶飲み場

高齢者の生きがいと社会参加促進のため、地域の集会所等でレクリエーション、健康チェック、茶話会など、それぞれ内容を工夫しながら住み慣れた地域で自立した生活が維持できることを目的に茶飲み場を開催しています。





高原町でいつまでも安心して豊かに生活できるように、支え合いの心に満ちた地域社会づくりを進めています。また、高原町健康づくり推進条例を制定し、『健幸』をこれからのまちづくりの基本とし、スマートウェルネスシティの構想に取り組んでいます。

百歳体操

今では全国各地で広まった百歳体操ですが、高原町でも約20のグループがあり、住民主体となって、自宅から毎週通える距離で集まり、各自活動を行っています。体操の前後の過ごし方は自由です。



健幸遊具

総合運動公園ちびっこ広場に設置されている健幸遊具は9種類あり、どの年代の方にも使いやすいものとなっています。健幸遊具の効果は多岐にわたり、組み合わせて行うことでバランス向上のほか、血行促進や免疫力を高める効果もあります。



smart
wellness
city

高原町は「健幸」（個々人が健康かつ生きがいを持ち豊かな生活を営む）をこれからのまちづくりの基本とし、スマートウェルネスシティ構想に取り組んでいきます！

高原町90年の歴史を振り返る

1950年



高原町立病院開院

1983年



畜産試験場開場

1984年



10月5日に高原町町制施行
旧役場庁舎建設

● 1934

● 1954

● 1974

● 1984

1973年



役場新庁舎（現庁舎）建設移転

1993年



皇子原公園オープン

1964年



町民体育館建設

2013年
産



高原駅開業 100周年

1959年



新燃岳噴火

2019年



御代替わり奉祝 高千穂登山会

2001年



ほほえみ館 完成

2022年



台風 14 号災害

1989年



高原町置村100周年
『ギネスに挑戦フルリレーマラソン大会』

2024

2014

2004

1994

2024年



高原町制施行 90 周年記念式典

2004年



高原町商工会移転新築完成

2011年



新燃岳噴火



高原町制施行 90 周年記念事業

みんなで参加！ 学校区世代間交流大会 ～ 未来へつなぐ 地域の絆 ～

10月6日、高原町制施行90周年記念事業として、『学校区世代間交流大会』を実施しました。

令和8年度に町内の小中学校が統廃合を迎えるため、地域の絆を更に深めることを目的として、各小学校での開催としました。

学校区世代間交流大会は、子どもから高齢者まで総勢1,100人以上の方が参加され、高原校区

高原小学校区



広原小学校区



(中央西、中央東)、広原校区、狭野校区、後川内校区の対抗戦による競技を行いました。

日本一美しい町を目指して、各校区で拾ったゴミ袋の数の多さを競い合う『スポーツゴミ拾い大会』をはじめ、体育館内では各会場をオンラインで繋いで、日本発祥の地たかはるにちなんだ『〇×クイズ大会』や各校区選抜選手による『玉入れ大会』などを行いました。

ゴミ拾いを通じて地域の方々が楽しそうに話し合う場面や子どもと高齢者が一緒になって競技する場面も見られ、和やかな雰囲気の中で、世代間交流が図られ盛会に行われました。

◎大会の結果

スポーツゴミ拾い大会

優勝

広原校区

特別賞(ゴミが少なかったで賞)

狭野校区

※全校区合計でゴミ袋(大)の数が、113袋でした。

〇×クイズ大会

優勝

狭野校区

玉入れ大会

優勝

後川内校区



高原町制施行90周年

感謝状・功労者表彰

90周年施行式典にて、宮崎県副知事をはじめ県選出国會議員・県議會議員・周辺市町長や議長など多くの来賓をお招きした中で、功労者表彰や感謝状が次の方々に贈られました。(敬称略)

自治功労者

町政発展の主軸となって活躍され、自治体行政関係に功労があった方

- ・前高原町副町長 蒲生 隆美
- ・高原町監査委員 中園 康興
- ・前人権擁護委員 森 いっ子
- ・元下広原区長 山本 治信
- ・前祓川区長 西川 嘉宏
- ・前中平区長 古賀 孝治
- ・上広原区長 西脇 京春
- ・湯之元区長 松石 忠

地域振興功労者

地域振興において顕著な功績があり、町政発展に功績があった団体

- ・後川内夏祭り実行委員会
- ・広原いきいきフラワークラブ

産業・観光振興功労者

産業・観光振興において顕著な功績があり、町政発展に功績があった方並びに団体

- ・合同会社石山牧場 代表社員 石山 和
- ・獣医師 松岡 恵美子
- ・高原町花卉生産部会
- ・後川内地区土地改良推進委員長 清水 公雄
- ・霧島狭野原土地改良区理事長 清水 計吉
- ・狭野土地改良区理事長 新地 和廣
- ・湯之元土地改良区理事長 栢木 信治
- ・狭野土地改良区理事 反田 吉己

教育功労者

教育の分野において顕著な功績があり、町政発展に功績のあった方並びに団体

- ・学校医 柘山 了
- ・フルーツバスケット

文化・スポーツ功労者

文化・スポーツの分野において顕著な功績があり、町政発展に功績の

あった方

- ・高原町スポーツ少年団本部長 中島 勤
- ・FC.VERTEX 今西 光輝
- ・高原町スポーツ推進委員 北迫 泉
- ・高原町スポーツ推進委員 瀬戸口 美智子
- ・高原町文化財保護調査委員 益本 一博
- ・高原町文化財保護調査委員 村田 經典
- ・東雲太鼓指導者 脇田 順子

福祉・民生功労者

社会福祉活動や福祉・民生に係る各種委員として功績のあった方

- ・高原町民生委員児童委員 宮田 信子
- ・前高原町民生委員児童委員 入佐 睦子
- ・前高原町民生委員児童委員 塩月 優子
- ・前高原町民生委員児童委員 重信 律子
- ・前保護司 坂口 俊夫
- ・前保護司 境 和彦
- ・前保護司 二宮 豊
- ・公認心理師 勝吉 恵美子

交通・消防・防災・防犯功労者

交通・消防・防災・防犯の分野において顕著な功績があり町政発展に功労のあった方

- ・消防団員 瀬戸山 博文
- ・消防団員 福丸 幸治
- ・消防団員 富田 博利
- ・消防団員 南 健一郎
- ・消防団員 今西 貴博

感謝状贈呈

- ・消防団員 林 英樹
- ・消防団員 上山 順司
- ・消防団員 黒木 文之
- ・消防団員 赤垣 聡
- ・消防団員 中武 利仁
- ・消防団員 久保 一樹
- ・消防団員 下村 健一
- ・消防団員 野口 裕史
- ・消防団員 松元 洋也
- ・消防団員 時任 康二
- ・消防団員 新田 年生
- ・元消防団員 福永 誠
- ・元消防団員 赤垣 博幸
- ・元消防団員 佐伯 雅治
- ・元消防団員 森山 浩一
- ・元消防団員 四位 和弘
- ・元消防団員 横田 秀二
- ・元消防団員 川畑 文秀
- ・元消防団員 原賀 喜也
- ・狭野神楽保存会
- ・祓川神楽保存会
- ・奥松 六吉
- ・郡山 利治
- ・斎藤 重盛
- ・村原 國雄
- ・横折ゲートボールクラブ



宮崎県高原町

2025年4月1日 発行

編集 高原町総合政策課

発行 高原町

印刷 株式会社 長崎印刷